

千葉演習林 ボランティア会

Abies 通信

(No.28)

2010.4.30

もくじ

1. 12・1月度 ボランティア活動・報告
＜演習林先生方の最終講義の聴講＞
2. 2月度（1）ボランティア活動・報告
＜ニホンジカなど生息数調査サポート＞
3. 2月度（2）ボランティア活動・報告
＜全学体験ゼミナール 炭焼きなどのサポート＞
4. 3月度（1）ボランティア活動・報告
＜Abies 定期総会・演習林を歩こう＞
5. 平成 22 年度 Abies 会員 登録のお願い
6. 今後の Abies 活動 参加者募集（予定）

12・1 月度 ボランティア活動・報告

～ 演習林先生方の最終講義の聴講 ～

1. 北海道演習林 宮本義憲先生 最終講義

平成 21 年 12 月 18 日（金）に東京大学農学部の弥生講堂アネックスで北海道演習林の宮本義憲先生の最終講義が行われ、岩崎夫婦、石松夫婦、相川さんと石川が聴講しました。当日は良い天気であネックスの前の地面は紅葉のきれいな絨毯となっていました。

10 月 4 日～ 6 日に北海道演習林見学に訪れた際、宮本義憲先生には 3 日間にわたって詳細に案内をしていただき大変お世話になっています。

講義内容は倒木更新、台風などによる森林の更新、エゾシカの被害など幾つかの事例を



紹介されましたが、私が一番印象に残った内容は次のことでした。

そのまま 原生林 にしておいては環境を保全する公益機能と人間の生活に役立てる経済機能の両立できる天然林はできない。それぞれの森が最高の能力を発揮できるように手を貸してやるべきでないか。

具体的には木を選木して伐採する作業になるが、単に悪い木を除けば良いということではなく、その木を伐採することが森全体の改良（健全度、成長、形態）さらには10年後、20年後の適度な立木空間まで考えておこなわなくてはならない。

天然林施業において伐採される木には一本一本に伐採される理由がある。

宮本義憲先生に神社山自然観察路にある選木実習林で詳細に説明いただいたことがありありとよみがえりました。



アネックス前の紅葉の絨毯

2. 千葉演習林 池田裕行先生 最終講義

平成22年1月22日（金）に東京大学農学部1号館1階7番講義室で千葉演習林の池田裕行先生の最終講義が行われ、岩崎、相川さんと石川が聴講しました。

池田裕行先生の研究の話は千葉演習林で何回もうかがっていましたが、今回は全体を通した話で改めて全体の内容を理解することができました。

今後、苗を現地に戻す作業について、ボランティア団体に期待することが大きいとの話でしたので、Abies としても協力できたらと思います。

発表内容

- ・日本におけるゴヨウマツ類の分布
- ・ヒメコマツが房総半島に隔離分布して残った理由



最終講義終了後の花束贈呈

- ・ 2001 年調査を中心にしたヒメコマツの房総半島での現状
- ・ 東大千葉演習林のヒメコマツの生存数の推移
- ・ 天然個体からの種子採取と人工育苗
- ・ 天然個体、庭木等を用いた人工交配
- ・ 天然個体の遺伝子を保存するための接ぎ木増殖
- ・ 現地への再導入
- ・ 成長経過
- ・ 病虫害対策
- ・ 今後の課題



農学部 1 号館前での記念写真

2 月度 (1) ボランティア活動・報告

～ニホンジカなど生息数調査サポート～



調査開始前のミーティング

平成 2 2 年 2 月 4 日 (木)、5 日 (金) に千葉演習林におけるニホンジカなどの生息数調査が行われ、サポート役として岩崎、中原、石松さんと石川の 4 名が参加しました。石松さんは今回が初参加です。調査は岩崎、中原さん組と石川、石松さん組の組み合わせとなりました。

演習林職員 2 2 名、その他東京環境工科専門学校 of 学生さんや我々ボランティア団体 1 3 名計 3 5 名が参加する大規模な調査活動です。

特に初参加の場合は調査日の朝に集合すると自分が何をしたらよいのかわからないという状態になるので、前泊させていただいて事前に調査内容の理解を深めました。

今年の調査地は例年のとおり、2 月 4 日 (木) の午前中に札郷作業所管内、午後は清澄作業管内、翌 2 月 5 日 (金) の午前は郷台作業所管内区です。

当日は天候にもめぐまれ、順調に終了しました。シカの生息密度は札郷作業所管内 4.4 頭/km²、清澄作業所管内 1.5 頭/km²、郷台作業所管内 4.2 頭/km² という結果で昨年と比べると清澄作業所管内、郷台作業所管内は少し減った程度ですが、札郷作業所管内は 15 頭/km² 4.2 頭/km² と大幅に減少しました。年々減少傾向にあり有害駆除の効果があらわれて

いるのかと思いました。

また、山田林長先生から絹皮病（木の幹が白い菌で覆われる木の病気）を平行して調べるような依頼がありました。かなり見つかったようです。

シカの生息数調査サポートは Abies の活動の中では最も技術的（地図が読めることなど）や体力的（道のない所を上下するなど）に大変な活動ですが、それだけにおもしろいとも言えます。Abies も演習林から頼りにされているサポート活動でもあり今後も継続参加をしましょう。初参加の場合、それなりの配慮してもらえますので、来年はぜひチャレンジされてはいかがでしょうか。

2 月度（2）ボランティア活動・報告

～全学体験ゼミナール 炭焼きなどのサポート～



薪割りをする学生

平成22年2月22日（月）から25日（木）にかけて全学体験ゼミナールが行われ、恵、土橋、米倉、中原、岩崎夫婦、石川夫婦の3名が参加しました。

今回の活動期間は4日間と Abies の活動としては長いのと、炭焼き関係のサポートだけでは作業が飛び飛びになってしまうので、間に何の作業をすのかなやみましました。結局、作業スケジュールを示して、自分の都合のつく日、

時間に参加して良いという募集をしました。活動の内容によってはこのような募集方法もあると勉強になりました。

今回の活動内容は全学体験ゼミナールプログラムの中にある炭焼き体験と木使い体験のサポートです。作業の合間に前に焼いた“炭の袋づめ”や“押葉標本の整理”をおこないました。

炭焼きは清澄作業所構内にある炭窯を使い、手順は次の通りです。

- ・4月22日 午後 : 材料の切り分けと窯入れ（薪割り、ペール缶へ材の封入、重量測定）
- ・4月23日 : 火入れ（焚口付近で燃料をもやし、窯の中の材料に火をつけて温度を上げる。） 数時間かける。

: 自然(250 以上の温度になったことを煙の色や臭いで確認して酸素供給量を減らすために焚口を狭める。)

数時間かける。

: 精錬(煙が出なくなってから焚口を徐々に開いて酸素を供給して炭を焼き固める。)

30 分から 1 時間くらいかける。

: 窯止め(焚口を塞ぎ、次に煙突をふさぎ、酸素の供給を断って火を消し、冷却させる。)

・ 4 月 24 日 : 冷却期間

・ 4 月 25 日 午後 : 窯出し(炭のとりだしとペール缶に入れた炭の重量測定)

今回の活動は炭窯の状況を見るために夜中に何回か起きて点検する覚悟で参加しましたが、そのような形ではありませんでした。

ただ一つのハプニングは、中に火がまわるのに非常に時間のかかったことでした。煙突の根元にぎっしり材料をつめすぎて空気が通りにくい形にしたのが原因と思われます。

参加の学生さんも薪割りなど普段やらないことをやって楽しみながら学んでいましたが私どもも貴重な体験をしたと思っています。

3 月度(1) ボランティア活動・報告

～ Abies 定期総会・演習林を歩こう～

事務局 石川 輝雄

1 . 平成 2 1 年度 Abies 定期総会

平成 2 2 年 3 月 1 6 日(火) に平成 2 1 年度の Abies 定期総会・懇親会と翌日の “ 演習林を歩こう ” が開催され、延べ 1 7 名の出席をいただき、無事終了することができました。協力いただきました皆様に感謝します。

今回の講演は才木さんに千葉演習林の概況説明をいただきました。演習林の内容を詳細に知ることは、Abies の活動をどのように進めるかの基本になることなので、今回の説明を参考にしてさらに活動内容を進めていきたいと思ひます。また、才木さんは 4 月から愛知演習林に転勤になるとのこと、



石尊山山頂での記念写真

今まで Abies への演習林窓口として大変お世話になり、本当にありがとうございました。今後もご活躍とご健勝を祈ってお礼申し上げます。

平成22年度も、森林資料館の“おし葉標本の整理”など種々の活動が予定されています。1年間の活動を通じて最低でも1回は会員の皆さんの顔を見たいということが事務局の願いですので遠慮なく活動に参加をお願いします。

2. 演習林を歩こう

平成22年3月17日(水)に「総会后・演習林を歩こう」が行われ、会員10名が参加しました。今年のコースは札郷作業所 前沢林道 石尊歩道 石尊山 郷田倉上歩道 県道 風致林歩道 札郷作業所です。

札郷作業所周辺に満開に咲いているマメザクラをながめて前沢林道を歩きはじめます。

コショウノキやオニシバリの花が咲いています。

今回は途中岩崎さんの解説つきですので、いつもよりゆっくりのペースで歩きます。

千葉には珍しいイヌブナの大木を横に見ながら、尾根の歩道を登っていきます。諸重田歩道の分岐をすぎ、少し行くと石尊歩道に突き当たります。ここで一休みしてから石尊山への左方向の道に向かいます。石尊山の手前、頂上に登らない巻き道があるのですが、3月3日に行ったコース下見の結果、土砂くずれで危険な状態なので、避けて石尊山の頂上のコースへ歩きます。



コショウノキの花

石尊山は標高347.6m、房総分水嶺の清澄山から北に派出する山脈中の高峰で鬱蒼とした木々の中に大きな石宮があります。このような大きな石宮をここまで運んだ信仰の力の大きさには驚かされます。お昼には少し早い時間に到着しましたので、小休止をして記念写真をとって(Abiesで記念写真を撮ることは珍しい。)から、郷田倉上歩道をくだりはじめました。最初は緩やかな尾根道の下り坂でしたが、次第に千葉の山特有の急坂になり、木にすがらないと降りられない様な状態となりました。下に沢が見えるようになって、さすがにおかしい、コースを間違えて枝尾根に入ったようです。下の沢が近くに見えて来たので、そのまま降りたくなりますが、千葉の山は沢に降りるのは禁物、遭難の危険があります。大変ですが、大汗をかいてもとの尾根の歩道にもどりました。地図とコンパスで方向を確認しなかったのは不覚でした。

さらに下って県道近くのゲートのある歩道の広場にでました。ここで遅い昼食をとります。

初めて参加された方は、今回コースミスをしたことありますが、千葉の山の険しさにびっくりされた様です。演習林の中のコースはどこも似たようなもので、今回のコースは比較的楽なコースです。

再び^{ふうちりん}風致林歩道にとりつきます。ここは過去に何回かシカの防護柵の効果などを調べたなじみの場所で樹齢100年を超える見事なスギ林です。さらに登ると風致林裏歩道の方



サツマイナモリの花

へ行く道の分岐に到達してから山の裾を右にまいてあるきます。ここからは途中歩道沿いにモミの巨木が多く、モミツガ天然林の中の状態を観察できます。また崖の陽の当る所にはサツマイナモリが咲いていました。その後スタート地点の札郷作業所に到着してから最後に今歩いてきた堂沢のモミツガ天然林を眺めて今日の“演習林を歩こう”はおわりになりました。

平成22年度 Abies 会員登録のお願い

事務局 石川 輝雄

本会は年度ごとの更新になっています。継続していただけないとAbies活動の募集案内などが出来なくなります。継続参加をしていただける方については、本年参加していただける方は次の方法での年登録料の振込みをお願いします。入会・登録は年度半ばでも受け付けます。

年登録料の振込み方法

もよりの郵便局より下記口座に振り込む。

また別途振り込みをした旨、必ず事務局にメールなどで連絡ください。

*年登録料(振込み金額) 1,000円

*口座 郵便局 記号10560 番号68444171
千葉演習林ボランティア会 Abies

*その他 手数料は各自ご負担ください。自分の郵便口座よりカードで振り込むと手数料は不要です。

*問い合わせ、連絡先 事務局 TEL/FAX:043-251-1390 石川 輝雄

今後の Abies 活動 参加者募集 (予定)

今後、別 Abies 通信で案内をします。

- ・猪ノ川林道自然観察会 5月14日(金) (日帰り)案内済み
- ・造林研修会聴講と押葉標本整理 5月下旬 2日間
- ・苗畑草取りと押葉標本整理 6月下旬 2日間

=====

千葉演習林ボランティア会 Abies 通信

*事務局 〒264-0032 千葉県千葉市若葉区みつわ台 3 - 1 - 2 - 102

TEL/FAX : 043-251-1390

石川 輝雄

*東京大学千葉演習林 〒299-5503 千葉県鴨川市天津 770

TEL:04-7094-0621 FAX:04-7094-2321